



<http://www.yamato-rc.org/>

委員会報告並びに地区出向者報告 & 3ミニッツ



- ・出席報告
- ・公共イメージ雑誌委員会：ガバナー月信12月号に地区クラブ管理運営委員会に出向されている細川会員の記事が掲載されています。
- ・親睦委員会：先週のクイズの景品を貰っていない方は武田会員まで
- ・青少年奉仕委員会：絵画コンクールにご応募いただいた児童の絵画返却が終了しました。
- ・3ミニッツ(桑原会員)：「お茶のお話」

スマイルBOX

本日 ¥7,000- 累計 ¥301,273-

◆R I 第2780地区ポリオプラス委員会副委員長根岸君代様(平塚北RC) / 本日は、ポリオプラスへ卓話の時間を頂きありがとうございます。野口会員は、4回目の卓話となりますので、一番、油がのっていると思います。どうぞ宜しくお願い致します。

◆R I 第2780地区ポリオプラス委員会野口宏様(大和中RC) / 本日は、卓話にお招きいただきありがとうございます。ポリオプラス委員会に配属されて2年です。少しでもポリオのことがお伝え出来ればと思います。今日は、よろしくお祈りします。

◆会長吉岡善一会員 / 野口様、本日は、卓話をよろしくお祈りいたします。根岸様、伊藤様、大和RCによるこそいらいしゃいました。どうぞ、ごゆっくりとお楽しみください。

◆宮東悠会員 / お誕生日のお祝い頂きましてありがとうございます。御座います。

◆増正之会員 / 皆出席、在籍年数のお祝いありがとうございます。

◆本田誠一会員 / あっという間に1月が終了。毎日の様に賀詞交歓会、そして残念ながら御葬式もいくつかありました。耐えながら、当たり前の日々が過ごせる様、希望を持って過ごしたいものです。本日の卓話、野口様、楽しみにしております。

◆細川康治会員 / 平塚北ロータリーの根岸様、大和ロータリーの野口様、海老名樺ロータリーの伊藤様、ようこそいらいしゃいました。

ソング 皆出席祝 会員誕生日 3ミニッツ ゲスト&ビジター



左から 根岸様&伊藤様

今後の情報	日付	時間	回数	プログラム内容
	2月 11日 (土)	14:00	—	第6グループIM 於：レンブラントホテル海老名
	2月 14日 (火)	12:30	2809	クラブ協議会「インターミーティングを終えて」
	2月 21日 (火)	—	—	取り止め例会*祝日週 2/23 天皇誕生日
	2月 28日 (火)	12:30	2810	卓話

例会日	会員数	出席	出席%	欠席	欠席者名	
1月 24日	36(5)	前々回	28	82.35	6	中戸川・戸張・桑原・丸茂・塚田・鳥飼
1月 31日	36(5)	前回	27	79.41	7	中戸川・戸張・石井・丸茂・塚田・鳥飼・金井
2月 7日	36(5)	本日				



Since 1962 RI第2780地区 第6グループ

大和ロータリークラブ 週報

Yamato Rotary Club Weekly

<http://www.yamato-rc.org/>

国際ロータリーテーマ



【大和ロータリークラブ活動方針：『つながろう やさしい未来のために』】

例会場 / 北京飯店 4F : 会長 / 吉岡 善一 幹事 / 相原 聡
 例会日 / 毎週火曜日12時30分~13時30分 : 会長エレクト / 森川 良三 副幹事 / 細川 康治
 事務局 / 大和商工会議所内 TEL046-263-7926 : 事務局 e-mail / jimukyoku@yamato-rc.org

第2807回 2023年1月31日(火)

司会 / SAA 伊藤 健司 君
 斉唱 / 「我等の生業」
 S.L. / 植松 朗代 君
 ゲスト / RI第2780地区ポリオプラス委員会 根岸 君代 様 (平塚北RC)
 RI第2780地区ポリオプラス委員会 野口 宏 様 (大和中RC)
 ビジター / 伊藤 敦範 (海老名樺RC)

会長の時間

吉岡 善一 会長

本日のテーマ:ロータリーの歴史(1)

本日から何回かに分けて、ロータリーの歴史をお話します。特に、現在にも生きている下記の項目について、その発祥に関する歴史を中心にお話します。

- ・ロータリーの日(2月23日)
- ・1業種1人
- ・イニシエーションスピーチ
- ・「ロータリークラブ」

1905年、アメリカのシカゴは、商道徳が欠如していて、儲けるためには何をしてもいいという時代でしたので、弁護士のポール・ハリスは、信頼できる友人達に声をかけて、1905年2月23日に第1回目の会合を開きました。よって、2月23日がロータリーの日となりました。当初の目的は、仕事上の相互扶助です。お互い同士で取引を行うことと、紹介し合うことです。同業者がいると喧嘩になるので、1業種1人に決めました。また、お互い仲良くやっていくために、仲良くする親睦も目的です。1か月後の第3回目に、石炭商のシルベスター・シールが「石炭業界の展望」と題して、スピーチをしました。これが、イニシエーションスピーチの始まりです。仕事のやり方や他の業界のことについて話すことにより、他の業界の人から異なる視線のコメントがいただける訳



です。いつの間にか、イニシエーションスピーチは、自己紹介になってしまいましたが。また、4回連続して欠席すると退会勧告を受けるという規則を決めました。現在も変わっていません。クラブの名前を決めようとしたが、なかなか決まりません。会場を、会員の事務所を持ち回りしたので、「ロータリークラブ」に決まりました。第6回目の会合に、遅刻した会員がいたので、理由を聞くと食事をしていたので、遅れたとのこと。人数も増えてきて事務所では手狭になってきたので、レストランでランチミーティングをすることにしました。現在の姿になっています。

幹事報告

相原 聡 幹事

- 【報告】
- ・2月11日(土)はIM会場はレンブラントホテル海老名です。
 - ・献血活動の日程：**5月20日(土)イオンモール大和で実施。**
- 【配付物】
- ・次第
 - ・週報
- 【回覧】
- ・インターアクト泊研修会のご案内
 - ・ロータリー



歴史をつくる カウントダウン

ポリオは根絶できる みんなの力があれば

まずは **ポリオ**という病気について説明します。ポリオはウイルスによって発症する感染症です。日本ではポリオが流行した時に小さい子供の麻痺がよくみられた為、「小児まひ」と呼ばれてますが、大人にも感染します。ウイルスは主に人の排泄物を介して口から入ります。不衛生な水などにより、飲食物や手などに付着して口から入ることが考えられます。口の中に入ったウイルスは喉に定着したり、あるいは飲み込まれて腸に定着し、増殖します。ウイルスはさらに付近のリンパへと侵入し、血液の流れに乗って中枢神経にたどり着き、麻痺を引き起こすことがあります。典型的な麻痺型ポリオ、1～2日インフルエンザのような症状がみられた後、解熱前後に急に手足に麻痺が現れます。手足だけに留まらず、全身に麻痺が残る場合もあります。左下の写真は麻痺により自身では呼吸が出来なくなった患者が入る「鉄の肺」と言われるタンクです。大きな鉄製のタンクに体ごと入り、タンク内の気圧を低くして肺をふくらませ、圧を戻すことで呼吸を手伝う装置です。日本におけるポリオは1940年代頃から全国各地で流行がみられました。1960年には北海道を中心に5000名以上の患者が発生する大流行となりました。そのため翌年に生ワクチンを緊急輸入し、一斉に投与することによって流行は終息しました。今では生後3ヶ月から12ヶ月の間に3回のポリオワクチン接種（4種混合ジフテリア、百日咳、破傷風）が義務化され、免疫維持がなされています。

ポリオウイルスに感染しても、無症状や軽症の場合が90～95%程度を占めますが、何の症状が出なくても、便の中にはウイルスが排出され、他の人への感染源となりえます。先ほど大人にも感染しますと申し上げましたが、たとえば第32代アメリカ大統領のフランクリン・ルーズベルトはポリオの後遺症で車椅子に乗っていましたが、ポリオに罹ったのは39歳の時でした。また2006年アフリカのナミビアでポリオの流行があった時も半数以上が大人でした。残念な事に、ポリオに有効な治療法はありません。しかしポリオはワクチンの接種により予防が出来ます。

ポリオは根絶可能な疾病です。なぜそう言い切れるのか5つの理由を述べます。

- 1・ポリオウイルスの感染期間は非持続的
- 2・感染経路は感染者とその排泄物のみ
- 3・ウイルスが自然界で生存し続けるには限界がある。
- 4・それとヒトが唯一の宿主です。
- 5・そして最後にワクチンの予防接種によって感染を防ぐことができます。以上が根絶可能な理由です。

1985年にポリオプラスプログラムが発足するわけですが、ここに日本人ロータリアンが深く関わっていたことを覚えておいてください。東京麹町ロータリークラブの会員であった山田つねさん、峰英二さんのお二人は 早くからポリオの惨状に深い関心を寄せ、南インドでポリオに苦しむ子どもたちにワクチン供与を2度にわたり実施され、その状況をつぶさに報告していました。この報告がポリオ撲滅運動提唱の原動力となり、東京の2地区を通じ働きかけ、国際ロータリーのポリオプラスプログラムへと発展したそうです。



0.1%がなぜ難しいか

さきほど1988年に比べて、発症数は99.9%減少したと申し上げました。残りは0.1%いや0.01%にも満たないです。しかしこのほんの少しの戦いが最も困難だと言われています。その理由は遠隔地、不十分なインフラ、戦争やテロ地域、そして文化的な障害が挙げられます。その間にも、他の地域が再発生のリスクにさらされます。

しかし私たちはこの残り0.1%の戦いをやめるわけにはいきません。

- ・野生株ポリオウイルスの発症が起きている3カ国でまず感染を断ち切る。
- ・既にポリオがいなくなったポリオフリーの国にウイルスが流入しないようにしなくてはならない
- ・流入リスクの高い国は最大60カ国と言われ、現在も続けて全国一斉予防接種などキャンペーンを実施。
- ・ポリオを完全に根絶しない限り、今後10年間で新たな発症は世界で20万件に上がると推定されています。

次は寄付の話です。

国際ロータリーではポリオ根絶の為に毎年5000万ドルの拠出を目標としています。一ドル135円で換算すると約67億円です。ビル&メリンダ・ゲイツ財団はロータリーの寄付に対して2倍額を上乗せすることを約束しています。資金は「根絶活動の運営」「医療従事者の支援、確保」「研究所の設備」「啓発資料」などに使われています。2780地区ではポリオプラス基金として一人40ドルを目標としております。これは私の試算ですが、今の全世界のロータリアンの総数は118万人ですので、5000万ドルを割るとちょうど40ドル相当になります。ビル・ゲイツはこのように言っております。「ロータリーから刺激を受け、私もポリオ撲滅に深く関わろうと決意しました。ロータリーがなければ、今日の世界はなかったでしょうし、今後世界が向かうべき方向も失われていたでしょう」

ポリオのない世界の実現へ向けて 根絶に賭ける5つの理由の述べます。

- ・根絶を諦めれば今後数千万人の子供がポリオで身体麻痺になる。
- ・根絶達成は目前に迫ってます。
- ・根絶を達成すれば、今後20年間で500億ドルの経済効果 7兆5千億円。日本だけでもワクチンがポリオワクチンが入った4種混合から3種混合に変わるだけでも1年間で150億円相当の費用が節減されます。
- ・そして疾病監視のネットワークは他の感染症対策にとって世紀的な贈り物になります。
- ・またポリオ根絶は公共保健の歴史的快挙となります。これは天然痘に続いて2例目です。



最後に世界の保健リーダーがポリオ根絶について語っておりますので、引用させていただきます。

進むべき道は明らか

昨年10月21～22日 スイス・ジュネーブの世界保健機関（WHO）本部で開かれたR IとWHOの共催イベント「World Polio Day 2022 and Beyond」でテドロスWHO事務局長は「ポリオ根絶は手の届くところにある。ロータリーのご支援があれば、子供は歴史の教科書だけでポリオを知るようになるでしょう。そのような未来が1日も早く来ることを願っています」と述べたそうです。

本年2022～23年度 佐藤祐一郎ガバナーはクラブ主体でのポリオ啓蒙活動をお願いしております。私たちポリオプラス委員会にお手伝いできることありましたら、お気軽にお申し付けてください。

国際ロータリーの悲願でありますポリオ根絶が一日でも早く達成されますことを心より願い、卓話を終わらせて戴きます。 ご清聴ありがとうございました。